

学 校 経 営 方 針

～心・体 元気な学校をめざして～

大田区立道塚小学校

校長 荻間 秀浩

1 学校経営の基本理念

本校は、今年度開校88年目を迎える。開校以来今日まで、こども・保護者・地域社会と共に着実に築き上げてきた歴史と伝統を大切にし、未来の社会を生きるこども中心の教育を基盤に、社会の変化に柔軟に対応した、創造性に富んだ学校経営を進めていく。基礎・基本の定着、思考力・判断力・表現力の育成を図るとともに、生涯にわたって学びに向かう力を培い、「笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力」をもつこどもの育成を目指して教育活動を展開する。都の教育目標・おおた教育ビジョンを踏まえ、「**健康・安全・人権なくして教育なし**」という考えの基、児童・保護者・地域・教職員から「友達と楽しく夢中になれる、学び甲斐のある学校」「期待できる、通わせ甲斐のある学校」「同僚と切磋琢磨し、働き甲斐のある学校」と評されるような、実践と研究・研修を積み重ね、自信と誇りをもってその教育活動を推進する学校づくりを基本理念とする。

2 学校教育目標

◎ すすんで学ぶ子（知）

○ こころゆたかな子（徳）

○ たくましい子（体）

3 学校経営の基本方針

人は、心も体も元気でなければ生活に、学習に、仕事に前向きな気持ちで臨むことはできない。日々の学校生活の中で、児童も教職員も心・体共に元気な毎日を過ごせるようにしていく。

目指す学校像（「あいうえおの学校」づくり）

あいさついっぱい学校

人との繋がりや、気持ちのよい挨拶から生まれる。児童が人としての礼儀をわきまえ、より良い人間関係を築く第一歩となる挨拶を重視し「あいさつ100%」の学校にしたい。

うんどう大好きな学校

生涯にわたって運動に親しむ素地は、幼少期に体を動かす心地よさや楽しさを知ることから始まる。スポーツだけでなく、体を動かして遊ぶ体験を多くできる学校にしたい。

えがおいっぱい学校

学習における「できた」「わかった」「やりとげた」時にみられる自然な笑顔がたくさん学校にしたい。

おもいやりいっぱい学校

すべての児童が安心して学校生活が送れるよう、教職員が模範となり、全教育活動を通して心を育て、思いやりのある学校をつくりたい。

日々の教育活動を通して実践していくことで、これらの目指す学校像の実現を図りながら、学校教育目標に迫っていく。

(1) あいさついっぱいの学校 (あいさつ100%の学校)

- 各学級における挨拶や返事の指導を重視し、自分からすすんで挨拶のできる子・返事のしつかりできる子を育てる。
(こども同士、教職員や来校者・地域の方に対してもすすんで挨拶できる子に)
- 児童会活動におけるあいさつ運動や校長講話等を通し、あかるく、いつでも、さきに、つづけて挨拶できる習慣を身につける。
- あいさつのプロを選出し、自分の挨拶習慣を振り返ると共に実践意欲を育てる。
- 毎朝、校門においてこどもたちを迎えると共に管理職・教員もすすんで挨拶を行う。
- ホームページや学校だより等であいさつ運動について伝えると共に家庭や地域における挨拶習慣の意識を高めていく。
- 保護者・地域によるアンケートにおいてあいさつ運動の実践について振り返る機会をもつ。

(2) うんどう大好きな学校

- 体育学習の充実
児童がめあてをもち、課題解決を図ろうとする授業展開・体育黒板の活用、学習カード、場の設定、学習の流れの掲示 体育教具の工夫等
- 体育的活動の充実 日常の学校生活における体育的活動を意図的・計画的に実施する。
中休み・昼休みの確保と外遊びの推奨・校内運動環境の整備
- 1校1取組の実践 (長縄跳び・短縄跳び・ランランタイム)
- 1学級1取組の実践 (各学年・学級における実践：長縄跳び・短縄跳び・クラス遊び等)
- 体力テストの実施⇒結果の分析・考察⇒それに基づく取組の実施
- 指導教諭による授業公開や指導法の研修により、体育指導の充実を図る。

(3) えがおがいっぱいの学校

- 学習規律の確立・徹底 (道塚スタンダード学習面の確実な定着)
- 日々の教材研究・研修に努め、基礎的・基本的な学力の定着を図り、児童が「できた」「わかった」と感じる授業づくりをする。
- 児童が自己の課題やめあてを意識し、個人・小グループ・全体で対話的・協働的な学習を展開する中で、主体的に学ぶ、協働的に学ぶ授業を構築していく。また、児童の考えを引き出す発問・指示、児童たちが共に課題を解決していく活動や板書の工夫、ノートづくりに努める。
- 各教科においてクロムブックを使った効果的な活用法の蓄積を図り、その成果を共有し発達段階に応じた指導法の向上を図る。
- OJT研修の推進 OJT担当を中心に教員のニーズに応じたミニ研修を実施し、教員の指導力・校務遂行力の向上を図る。
- プログラミング教育の推進 (各教科におけるプログラミング的思考の実践)
- 外国語活動の充実
ALTを活用した外国語科を5, 6年70時間、外国語活動を3, 4年35時間、1, 2年25時間実施し、英語に慣れると共に学ぶことの楽しさを味わう。
- スタートカリキュラムの推進
入学児童に生活科を中心としたスタートカリキュラムを学校全体で取り組み、児童の主体性を育て、6年間の学校生活の土台としていく。

- 家庭との連携をとり、宿題や家庭学習の充実を図り、学習習慣を確立するとともにその価値を実感できるようにする。(児童の努力が自分で実感できるようにする。)
- 「スクサポ」と連携し、地域や外部人材の教育力を生かした学習を展開し、本物体験を味合わせる。(授業サポート・MSC(道塚サマーチャレンジ))

(4) おもいやりいっぱい学校

- 道塚スタンダードの確実な定着を図り、節度をわきまえ、自主自律の精神を培う。
(みちづかノートへの記載・学習や生活の様々な場面で声かけをし、意識付けをする。)
- 「特別の教科 道徳」を通し、道徳的価値を自分事として理解し、他者との関わりの中で多面的・多角的に深く考えたり、議論したりする道徳教育を充実させていく。
- 年間を通し「読書・学習の時間」を設定し、豊かな想像性・感性を育てる。
(読書学習司書や地域図書館・図書ボランティアの活用、読み聞かせやブックトーク)
- 音楽会を開催し、自己表現の楽しさや喜び・皆で創り上げる達成感を味わう。
- ふれあい月間におけるアンケート、スクールカウンセラーによる5、6年生児童全員面接等によるいじめの早期発見・早期解決の促進
- 特別に支援が必要な児童に対する指導・支援の充実(きずな学級教員、サポートルーム巡回指導教員、スクールカウンセラーとの連携、きずな学級・特別支援教室の充実、子家センや児相・SSWなど外部機関との連携、等)
- 「リーダー・イン・ミー」(こども版7つの習慣)の教育理念を学習・生活・特別活動など様々な場面で活用し、児童の自己肯定感を高めると共に、互いを尊重しあう態度を育てていく。(委員会活動・クラブ活動における主体的な態度の育成、校長による全校朝会講話 等)

4 新おおた教育ビジョンにおける本校の関わり方(今年度の重点指導項目として)

基本方針1 持続可能な社会を創り出すグローバル人材を育成します

個別目標 1 予測困難な未来社会を創造的に生きる力の育成

- ☆ 教科「おおたの未来づくり」の推進

教科「おおたの未来づくり」の昨年度の実践を振り返ると共に、さらに研究実践を進め、未来を創り出す力をもつ児童の育成を図る。エリア協議会における他校からの情報収集や他校との情報共有を行いながら、おおたの未来づくりの推進を図る。

- ☆ 生活科・総合的な学習において、学びを創る力(思考力・判断力・表現力等)を高め、児童がすすんで関わる力(学びに向かう力、人間性等)の向上を図る。

個別目標 3 一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力を育成

- ☆ 委員会活動やクラブ活動等において、児童が主体的に取り組めるよう学期ごとや年間の見通しをもたせながら、活動に取り組んでいく。
- ☆ 学級活動を充実させ、児童が意欲的に係や当番活動に取り組む。学校全体で指導の共通理解を図り、計画的に学級会を実施することを通し、児童の主体的な態度を育成していく
- ☆ 体育学習の充実に努め、児童が自己の課題を明確にしながら、運動に取り組むことで、こどもたちが体を動かす楽しさを感じ、生涯にわたって運動をする素地を培う。高学年においては、教科担任制を行い、体育指導の専門性をもつ教員による授業を展開する。
- ☆ 児童がすすんで自然と体を動かそうとするために、校内の運動環境の整備を行う。

☆ 小中一貫教育の推進

地域の御園中学校、相生小学校と連携し、5つの分科会における共通視点を持ち、授業交流や協議会を定期的に実施し、小中連携を深めていく。

☆ 栄養士や食育リーダーが中心となり、食育教育の充実を図り、バランスのよい食事や食生活の大切さに気づくと共に残菜率の減少に取り組んでいく。

基本方針 2 誰一人取り残さず、こどもの可能性を最大限に引き出します

個別目標 4 学校力・教師力の向上

教職員一人一人が、自らの役割を自覚し、子どもたちのために何ができるかを考え続け、実践していくことが学校全体の教育力を高めていく原動力となる。そのために以下の取組を通し、日々の教育活動を実践していく。

☆ 「リーダーインミー」の研修の充実

フランクリン・コヴィー・エデュケーション・ジャパン社との連携により、教員自身が、「リーダーインミー」の考え方を学び、日々の指導にどう生かしていくかを考え、授業・特別活動・生活指導等で具現化していく。年度の後半には、授業における具現化を目指す。

☆ 高学年教科担任制の実施

高学年では、国語・社会・体育の教科担任制を継続し、各教員の専門性を生かした教科指導を推進する。教材研究を1つの教科で3回行うことで、指導力の向上と働き方改革につなげていく。

☆ 低中学年の交換授業の実施

低中学年においては、学期に1回以上を目安に道德の交換授業を行っていく。一人の教員が学年の全学級で授業を行うことで、学年の児童全員を学年で見えていく意識を高め指導を行っていく。

☆ クロムブックを活用した学習を各教科で展開し、学習の個別最適化や指導の個別化を図る共に協働的なまなびを構築していく。

☆ 単元の始めに児童と一緒に学習計画を立てたり、毎時間の学習の見通しをもたせたりすることで、自己の学習課題を意識させ、主体的に学習に取り組む態度を育成する。

☆ 校内OJT：初任者、3年次教員の毎週の授業参観、日常的な授業参観、放課後の指導、自己申告授業における相互授業参観の実施し、互いの授業力向上に努める。

☆ 学年OJT：学級経営、生活指導、学習指導における若手教員の育成

☆ ミドルリーダーの育成：若手教員の指導、学年主任会の活用を通しミドルリーダーを育てる。

☆ 学級担任だけでなく学年の連携を強め、組織として児童の指導・保護者対応を進めていく。

☆ 何のためにするのか？子どもたちの為になるのか？さらにより良い方法はないか？を常に問ひかけ、職務内容の見直しを図る。

☆ 教師の働き方改革

ライフ・ワークバランスの取れた働き方が、教職員の心身の健康を保つことにつながり、子どもたちの指導に生きていくことを意識する。

(午後出張時の直帰推奨・月1回の健康推進日の設定)

個別目標 5 自分らしくいきいきと生きるための学びの支援

☆ 軽微ないじめも含めて、アンテナを張りながら子どもたちの日常を観察、早期発見・早期指導を行う。状況によって警察や外部機関との連携をとっていく。(HYPERQの活用等)

- ☆ 不登校児童への対応について、学年・生活指導部を中心にケース会議を開催し、ケースによっては外部機関・地域と連携して組織的に対応するシステムを継続・推進する。
- ☆ きずな学級（自閉症・情緒障害特別支援学級）との連携・特別支援教育の充実
今年度開級したきずな学級のこどもたちと通常級のこどもたちとの絆を創造していく。
その為に教員同士の連携を密に取り、連携を深めていく。
様々な課題をもった児童のいる中で 困った子は、困っている子の意識をもって対応を
どのような支援、声掛け、指導がその子たちに通じるのか？
きずな学級、ホールームの教員からノウハウを学び、共有し、指導に生かす。
（Ｓの会、ＳＳの会、教育相談研修会等）
- ☆ 家庭との連携し、早寝・早起き・朝ごはんの取組を奨励し、基本的生活習慣の定着を図っていく。

基本方針 3 すべての区民が未来を担うこどもを育て、ともに学び続けます

個別目標 7 学校・家庭・地域の連携・協働による地域コミュニティの核としての学校

- 地域の中からこどもたちが登校し、地域の中でこどもたちが育っていく。地域との連携・協働なくして、学校教育は成り立たない。何のためにするのか、こどもたちにとっての有効性の視点をもって、教育活動を展開していく。開かれた学校づくりとして以下の点を推進していく。
- ☆ コミュニティスクールの推進（学校・保護者・地域でこどもたちを育てていく）
 学校運営協議会との連携を密にし、こどもたちの為に、教員の働きやすさの為に何ができるかを模索・議論し、できることから実施していく。
 - ☆ 教育活動の情報発信
 ホームページ積極的に更新し、日々の教育活動を発信していく。
 学校だよりと学年だよりを統合し、学校や全学年の教育活動を全家庭にわかるようにする。
 手紙等の配布物のオンライン配信を行い、家庭だけでなく時間のある時に閲覧できるようにする。
 - ☆ 保護者との連携の強化
 保護者と話す機会、会う機会を大切にし、共にこどもたちを育てていく共育の意識をもつ。
 （個人面談を 7 月と 12 月の年 2 回実施）
 - ☆ P T A 活動やスマイルパパ、地域との連携
 P T A やスマイルパパ、地域などのイベントを通し、保護者と児童と地域、学校との繋がりを深めていく。
 - ☆ 学校公開と保護者アンケートの実施
 年 3 回の土曜日学校公開を実施し、日々の教育活動を公開するとともに保護者アンケートを実施し、教育課程の改善を図っていく。
 - ☆ 用具の安全な管理、準備、後片付け等、活動するための安全の場の確保の徹底を図る。
 （体育・図工・家庭科等全授業において）

- * 下線部 今年度新たに加筆修正した部分
- * 網掛け部 今年度の教職員の思いを載せた部分